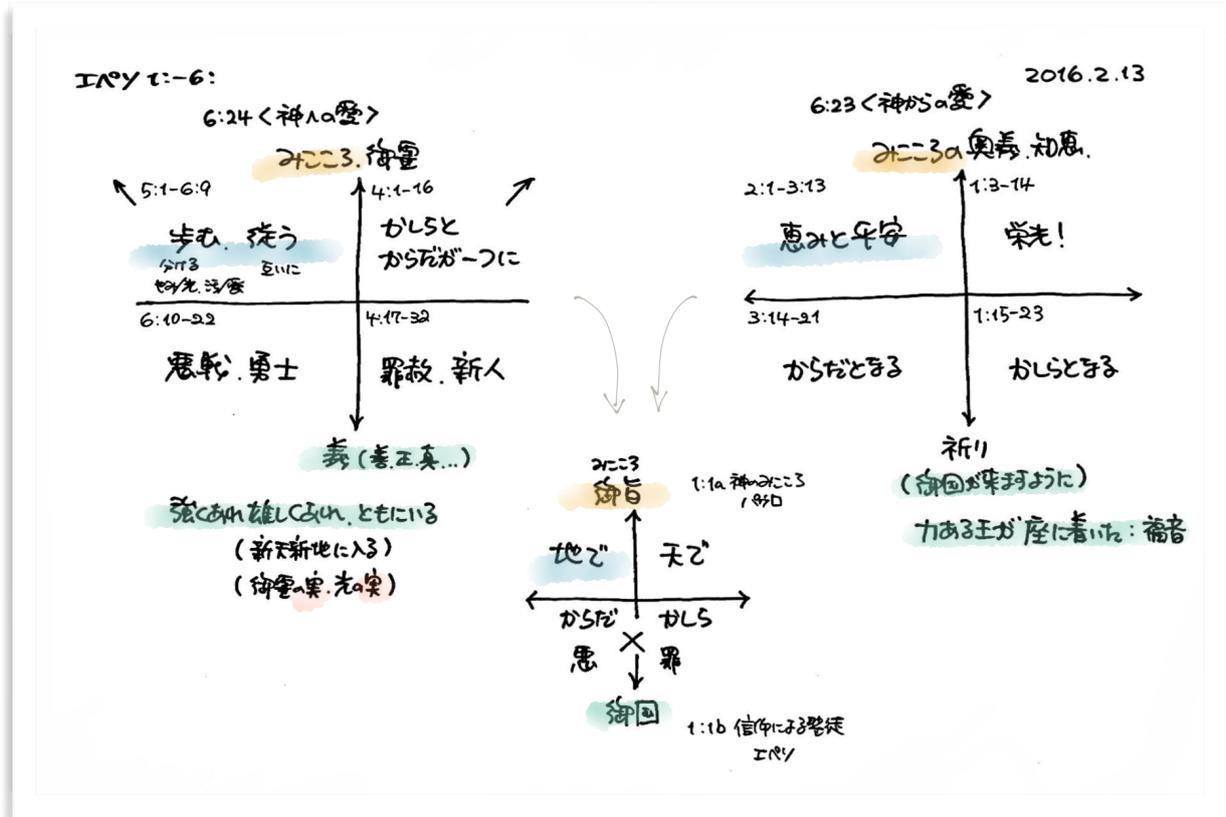




エペソ人への手紙 1-6章 エペソ人への手紙の祈り



エペソ人への手紙を分析してきましたけれども、苦勞しました。

最初は1章から3章と、4章からと分けていましたが、途中で1章から2章と、3章からというふうに分けました。パウロの働きと。よく見て、長い箇所がありますね。特に、具体的な「妻たちよ、夫たちよ」というところが長いねということで見えて、2章1節から3章13節までパウロのところは、恵みと平安について話しているところだということで、まとめるようになったので、また、1章から3章と、4章からというふうに分けるようになりました。

最後の言い方、6章23節「父なる神と主イエスキリストから、平安と信仰にともなう愛とが兄弟たちの上にありますように(神様からの愛)」これが前半。6章24節「私たちの主イエスキリストを朽ちぬものをもって愛しているその全ての人に恵みがあるように」ということで、「神様への愛」が後半と考えました。はっきり分析して分かっているのは、1章の後半と3章の後半に祈りがあります。それと形が似ているのが、4章の後半の「罪が赦される話」と「新しい人を着る」というところ。飛んで6章の終わりのところに「武具を身につけること」と、「互いのために祈ってください」という話が似ているところです。着る着るといのがあったりして…。そこをベースにして分析してきました。

(ホワイトボード右と左の)この4つ4つの分け方の形が似ているということで、どのよう似ているかという、(下の図の)みこころと御国という形です。どちらも最初の1章

3節からと4章1節からが天の話をしている。そして、具体的な話をしている。それはどうだろうということ、見ていたら、出だしのところに、みこころ、みこころ、みこころ、みこころ、ということが書かれていて、確かにここは、みこころの奥義があらわされているという栄光、それをほめたたえている。天でみこころが行われるように(1:3-14)、地で行われるというところが、この長い段落(2:1-3:13)です。

4章のほうも「かしらとからだ一つになります」という天の神様のみこころがあらわされて、では、具体的に地ではどのようにあらわされるのか？これが、「歩み、従い合う」というところであらわされるということで、「みこころが天で行われるように(1:3-14)(4:1-16)、地でも行われますように(2:1-3:13)(5:1-6:9)」ということになっているかなと。

祈りのところ(1:15-23,3:14-21)と、新しい人間になって、勇士になるというところ(4:17-32,6:10-22)は、何だろうということ、区別したところ、この祈りの中で「力」ということが目立ちます。力が何種類かあるみたいですが、力というところが目立ちます。天の御座について、支配、権威、権力、主権。その王座についたというかしらになることと、その王座について教会を愛で満たしてくれる、教会がキリストのからだになるということです。「力ある王が座に着いた」。すなわちそれが福音。神の国の福音。「御国が来るように」という祈りが、この祈りをまとめる言い方になるかと思いません。

こちら(1:15-23)は、かしらとなる。キリストがかしらとなる。こちら(3:14-21)は、教会がからだとなるというその一致を求めている「御国が来ますように」その福音を求める祈りに対して、(4:17-32)罪が赦されて新しい人になる。(6:10-22)力が与えられて悪と戦って新しい時代を作っていく。

こちら(後半4章から)は上と対比されていますけれど、御国が来ますように、義が行われるようにという意味で、善、正義、真実、真理みたいなのが後半に多いですね。

こちら(前半)は、力ある王がまず王様として民を救った。その救われた民は強くあれ、雄々しくあれ、私は共にいると言われて、新しい天、新しい地を作っていく。それが、御霊の実、光の実を約束の地で結ぶように導かれているというのが…前半は祈りの部分ですけれども、後半は、義の実を結ぶという新しい天と新しい人類が作られていくという、「御国が来ますように、みこころが行われますように」という前半、後半というこの形が似ているのではないのでしょうかということです。

みこころと御国については、もしかすると出だしの1章1節「神のみこころによるキリストイエスの使徒パウロ」。神のみこころを宣べ伝えて教える奥義を明らかにするパウロ、そのパウロから「キリストイエスにある信仰によって聖徒とされた、聖められた教会となったエペソへ」という出だしのところも、この2つの違いを「みこころと御国」ということをあらわしているのかもしれないなと思っています。前半は、みこころのところは、奥義、知恵。後半のみこころのところは、御霊。御霊により一つになるという、知恵と御霊によって新しい教会、からだ、聖められて作られていくということが、エペソ全体の中で言われていることだと思います。

ここまで来てしまうと、御国とみこころなら、主の祈りのほかのものは、どこかの手紙で言われているのかということになりますけれど、それはまた、考えなくてはいけないという課題です。